

1. 嫌な気持ちになったこと、させたことについて

先生の「認める」まなざしが、教室を安心な居場所に変えます。

児童生徒自身が「自分は大切にされている」という気持ちをもつことが成長につながります。自らの大切さが認められていることを実感できるような環境づくりをお願いします。

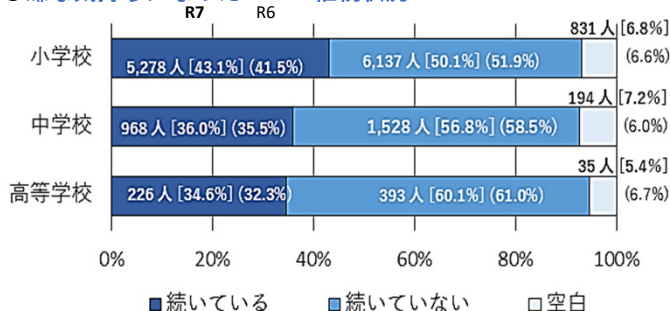
○嫌な気持ちになったことがあるか

	小学校	中学校	高等学校
ある	12,246人	2,690人	654人
ない	36,116人	20,692人	15,961人

○嫌な気持ちにさせたことがあるか

	小学校	中学校	高等学校
ある	3,294人	691人	139人
あるかもしれない	8,676人	2,836人	798人
ない	36,392人	19,855人	15,678人

○嫌な気持ちになったことの継続状況



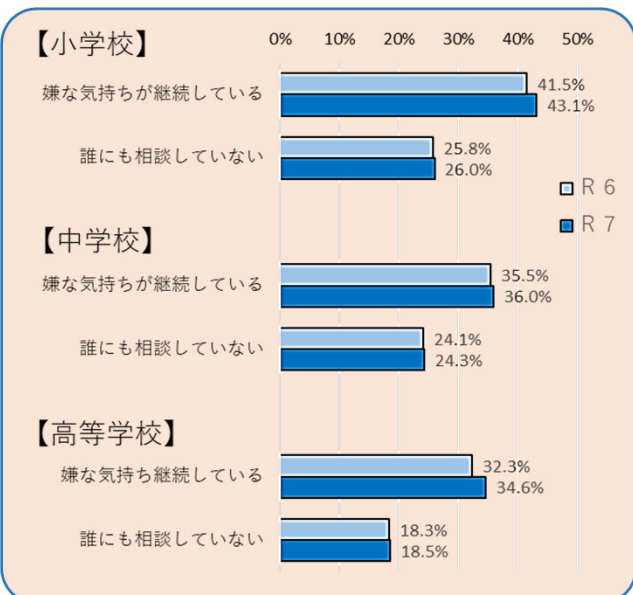
嫌な気持ちになったことの継続状況について、小学校では約4割の児童、中学校・高等学校では3割を超える生徒が解消されていなかった。（回答時点）

2. 相談の状況について

「いつでも聴くよ。」その姿勢が、いちばんの安心をつくります。

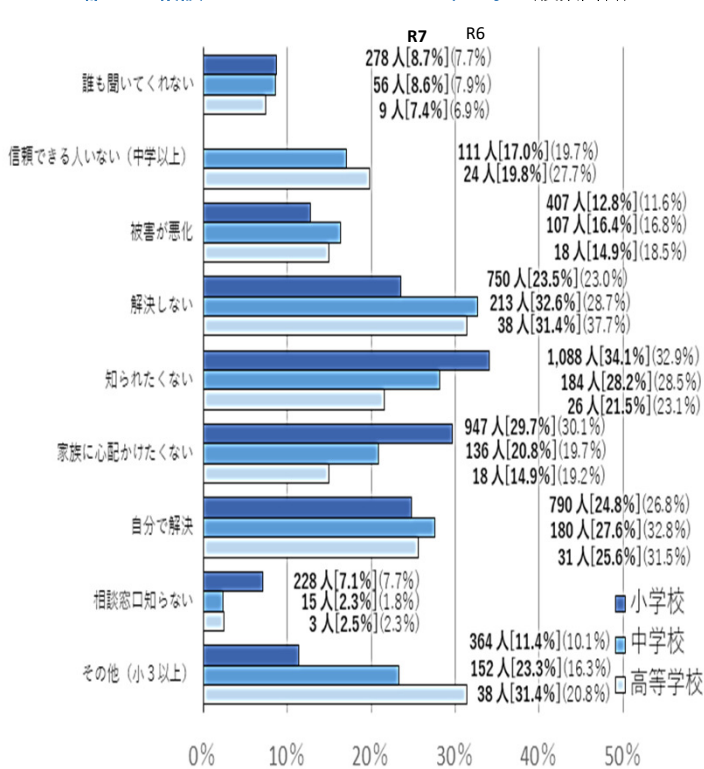
相談できずにいる児童生徒のサインに気付けるよう複数で見ていくことや、他者に相談することで気持ちが楽になったり視野が広がったりするなど、相談することのよさを伝えることも大切です。児童生徒と信頼関係を築きながら、相談しやすい環境づくりをお願いします。

○嫌な気持ちになったことの児童生徒の継続状況と相談先



全校種で、嫌な気持ちが継続している割合が増加。誰にも相談していない割合も増加しており、その理由として、「相談しても解決しない」「知られたくない」「家族に心配をかけたくない」「自分で解決したい」と回答した児童生徒が多くみられた。

○誰にも相談していないのはなぜですか。（複数回答）



子どもたちのための各種相談窓口はこちら→



子ども支援サイトへのリンク



警察庁Webサイトへのリンク

3. 教職員と児童生徒との関わりについて

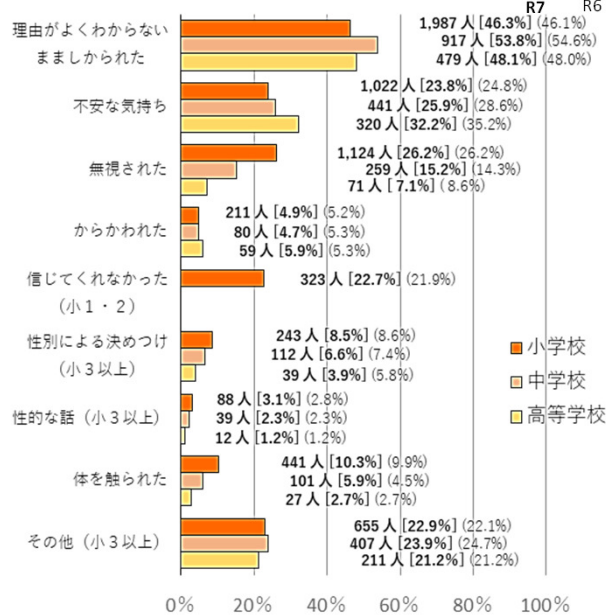
先生の姿勢が、子どもの権利と安心を守っています。

「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」や「こども基本法」の理念を踏まえ、「傾聴」や「対話」を大切に、児童生徒一人一人を深く理解できるような配慮をお願いします。

○教職員からの言動で、うれしい気持ちになったことの内容
(複数回答)

小学校		R7	R6
1	楽しく、分かりやすい授業	26,329人 65.0%	66.7%
2	がんばったことを認めてくれた	19,616人 48.5%	49.8%
3	困っているとき、助けてくれた	16,814人 41.5%	42.5%
4	悩みを聞いたり、相談に乗ってくれた	12,508人 30.9%	32.8%
中学校		R7	R6
1	楽しく、分かりやすい授業	11,607人 64.3%	65.0%
2	がんばったことを認めてくれた	8,008人 44.3%	43.5%
3	困っているとき、助けてくれた	6,153人 34.1%	34.0%
4	悩みを聞いたり、相談に乗ってくれた	5,784人 32.0%	31.4%
高等学校		R7	R6
1	楽しく、分かりやすい授業	6,256人 54.6%	53.4%
2	がんばったことを認めてくれた	4,162人 36.3%	38.7%
3	悩みを聞いたり、相談に乗ってくれた	3,427人 29.9%	29.1%
4	困っているとき、助けてくれた	3,153人 27.5%	27.8%

○教職員からの言動で、嫌な気持ちになったことの内容
(複数回答)

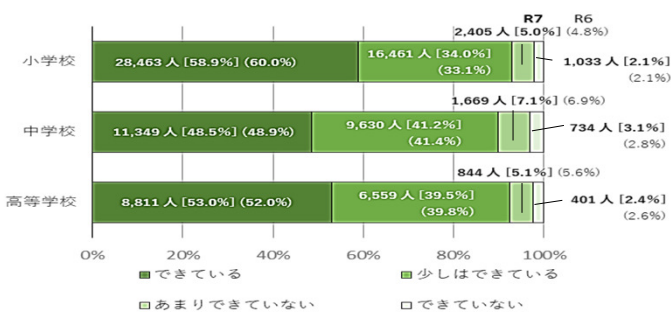


4. 多様性を尊重する教育について

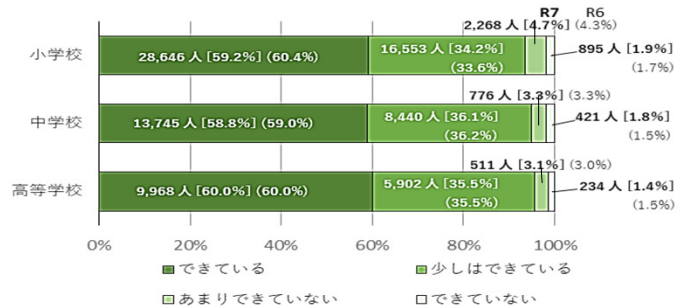
先生の安心は、子どもの安心。みんなで創る、人権が尊重される学校。

教職員自身の人権も大切にしながら、学校やクラスが児童生徒にとって安心できる、人権が尊重される場となるよう、人権教育の推進をお願いします。

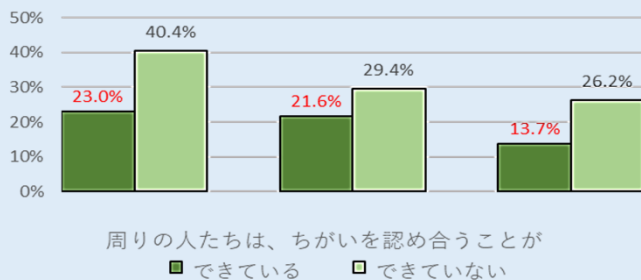
○周りの人たちは、ちがいを認め合うことができているか



○自分は、ちがいを認めることができているか

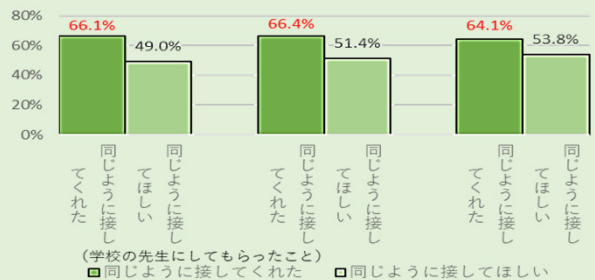


「知られたいから相談していない」児童生徒の割合



「周りの人たちは、ちがいを認め合うことができている」と感じている児童生徒は、「知られたいから相談しない」と考える割合が低かった。

「自分は、ちがいを認めることができていると思う」児童生徒の割合



全校種で、教職員が「同じように接してくれた」ことを経験した児童生徒は、自分自身はちがいを認めることができていると思う割合が6割を越えている。